

【学校だより】

ほさかつこ

穂坂っ子

【学校教育目標】

心豊かで
かしこく
たくましい子ども

平成31年3月15日 NO11 最終号 穂坂小学校長

本年度(平成30年度)も残すところ、あと一週間程です 一人ひとりの更なる活躍をめざして…!

今年度も残すところわずかになりました。6年生の教室には「卒業まであと〇日」という掲示があり、残り少ない小学校生活を大切にしようという気持ちが伝わってきます。6年生に限らず1年生から5年生も、今年度の残された時間を大切にしてほしいと思います。

まもなく迎える卒業式、そして、続いて行われる修了式を前に、その意味を考えてみたいと思います。卒業の「卒」には、「終える」という意味があります。「業」には、「なすべきこと」という意味があります。つまり「卒業」には、なすべきことを成し遂げたという意味があるのです。6年生に手渡す卒業証書には、「小学校の課程を修了し、卒業したことを証する」と書かれています。同様に、1年生から5年生には「修了証書」が「あゆみ」についており、「第〇学年の課程を修了したことを証する」と書かれています。どちらも、学校生活を通して、貴重な体験を積み、さまざまなことを学んできた結果の証です。

このような節目の時期に大切なことは、学習面・生活面・活動面・心のあり方など、いろいろな角度から自分をふり返らせることです。ふり返りこそ、「子どもが成長する要因」の一つだと言われています。意識の持ち方一つで、次のステップに向けての行動が大きく変わるので。



卒業式・修了式を目前に控えた学年末という節目は、児童が進学や進級に対する心構えをつくる大切な時期です。学校では、残り数日間を有意義に過ごすことができるよ

う、「これまで積み重ねてきた学び」、「仲間と築き上げた絆」など、かけがえのない経験に、さらに自信と誇りを持たせ、4月から始まる新しい生活に向けた心構えを育てていきたいです。

一年間、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。



卒業式



シリーズ⑪

褒め言葉の効用!

さりげない一言が、あたたかい!

心に響く言葉…そして、美しい言葉
「あ り が と う」

「ありがとう」は、「有難う」と表記されることもあり、読んで字のごとく「ある」ことが「むずかしい」…つまり、「滅多にない」「めずらしい」「あり得ないこと」という意味です。したがって、ミラクルなことが起こった時に言う言葉が、本来の「ありがとう(有難う)」の使われ方でした。人に対して使われるようになったのは室町時代からで、「あなたの存在はとても貴重なことなんです。有り難いことだ。」と、相手の存在を認め、感謝する言葉として使われ始めたようです。この言葉(ありがとう)は、「21世紀に残したい言葉」・「自己肯定感を育む言葉」・「子どもが大人から言われて嬉しい言葉」等のランキングで1位となり、人気ナンバー1です。「ありがとう」の言葉をもらおうと嬉しくなりますし、他人に「ありがとう」を言うと幸せが深まります。「ありがとう」は、みんなが幸せになる言葉なのです。

「ありがとう」の反対語は、「有り難い」の逆ですから、答えが一つの「あたりまえ」です。改めて「ありがとう」の言葉の偉大さが伝わってきます。

・・・あ・り・が・と・う